

子どもが主体性を発揮しながら育つ「遊びを中心とした保育の実践」

伊那市立美篤保育園

ねらい：友だちとイメージを共有し一緒に工夫しながら遊びを楽しんでほしい。

子ども同士が言葉で思いを伝え合う対話力が育ってほしい。

保育の場面

登園後すぐに園庭で遊びだす子どもたち。0,1 歳児クラスも含め未満児から幼児まで園庭で一緒に遊ぶ。異年齢で遊ぶ事が当たり前になっており、自然な関わりができています。

春から夏・・・たくさんの遊びを経験する。好きな遊びを満足するまでとことん遊ぶ子どもたち

春～夏の間、園庭中に広がり様々な遊びを夢中になってたっぷり楽しんだ。

未満児砂場

水・泡・砂の感触を楽しんでいる

砂場遊び

川・海・トンネルなど作って楽しんでいる

園庭川作り・水流し

雨どい、タイヤ、ケーブルドラムを組み合わせて遊んでいる

クッキー作り・赤土山泥滑り

クッキー作りに適した赤土を探すようなる泥を滑る楽しさを味わっている

色水遊び

草花や思い思いの素材を使い色水作りを楽しんでいる

石鹸・泡遊び

水の量を加減し泡の固さを工夫している
草花を使って色のついた泡作りを楽しんでいる

カフェ・ごちそうづくり

赤土でスイーツを作って草木を飾ることを楽しんでいる
使いたい素材を家から持参し期待感をもって遊んでいる



① **保育士の思い・悩み**・・・「それぞれ個々で遊んでいる姿が多い。遊びと遊びがつながったり、友だち同士関わったり深まったりしない・・・なぜ遊びが発展していかないのだろう？」

② 職員会での話し合い

- ・今は好きな遊びに夢中になって遊ぶ時なのでは！？
- ・自分で作った物を大事にして満足している時期なのでは！？
- ・保育士が遊びと遊びの仲立ちとなったり、他の遊びにも目を向けさせることも必要だが・・・

～今はとことん好き遊びを楽しませよう！～



黙々と遊ぶ姿ではあるが、視線が下向き

運動会を経て秋・・・夏中楽しんだ水中心の遊びから秋の木の実、花、葉、枝等の自然物を利用するの遊びに変化。

「みずずまつり」への展開

運動会后、年長児が火起こしごっこ→ピザ窯作り→ピザ作りと遊びが展開した。ブロックでピザ窯を作り網を用意して設置。ピザ作りでは畑の野菜(成長しきれなかった野菜)自然物等いろいろ集めてトッピング。



ピザにトッピング！！

ピザ作りが始まると、すぐに異年齢が入り混じって遊びだす。誰が来て遊んでも大丈夫な雰囲気があり安心して年少児や未満児も遊びだせる。
テントにピザ窯を設置したことも居場所として落ち着いた。その他にクッキーやポッキー作り、お弁当作り、ケーキ作りなども園庭中に遊びが広がっている。

枝にチョコつけてポッキーになった！！



みんなが大好きなシンボルツリーの木陰でケーキやお菓子づくり

1歳児がなつめの木の下でごちそう作り



大きなひまわりの枝でテントができたよ！

いろいろな遊びが展開しているこれらの様子から「フェスにしたい」「スタンプラリーもしたい」と思い始めた年長児。早速チラシやスタンプなどの準備を始める子もいた。チケットやお金のやりとりも自分たちで始める姿も見られた。～自ら考えて動き出す子ども達になっている！遊びと遊びがつながり出し、友だち同士で考えを出し合い協力しながら遊び始めた！！～

フェスのようなことを園庭でやりたい。みんなで遊ぶにはどうしたらいいだろう・・・年長児の思いを園全体へ

① 年長児の話し合い

まず園庭ではみんながどんなことをして遊んでいるかを出し合いイメージを共有する・・・**園庭図利用**

「(未満児も含めて) みんなで遊びたいよね。」

いろいろな遊び(コーナー)が園庭に広がっている様子が『**農協祭**』のようだね」と子どもたち。多くの子どもが農協祭に行っており、みんなでイメージしやすく『**みすずまつり**』と決定。まつりの内容、計画、役割分担を年長児で検討。



② 保育士の話し合い

年長児の思いを実現したい! 年長児の話し合った計画をもとに、どうしたら全園児が楽しめるのかを検討し全保育士でイメージを共有。

・・・遊びのコーナーの内容・場所等の検討 保育士の担当 小さな子にも楽しめるようなわかりやすさ 安全面 コインの素材等

設定保育ではなく今まで大切にしてきた自由遊びの中で「みすずまつり」を楽しみたい。

そのために、保育士の立ち位置、役割、などを再検討。子ども達の主体性を支えながら遊びをフォローしよう!

みすずまつり



テント下のピザ屋が焼もろこしやおにぎりも焼いて売り出し中!!



お寿司が並んだよ!
回転寿司屋さん



コイン交換所「このコインで買い物やゲームができますよ」「お店ごとコインの数が違うのでどこに行きたいか教えてください」



ゲームコーナー（輪投げ・ボーリング）



おうちレストラン

年長児は役割を果たしながら、他のお店やゲームも楽しんだ。友だちとアイデアを出し合い、工夫をしながら品物を作る姿、自信をもって持ち場を守る姿が見られ頼もしかった。

年長児以外は好きなお店へ行って作ったり、売ったり、買ったり、ゲームをしたり自由に楽しんだ。

学びの評価

・好きな遊びを満足するまで繰り返し楽しむ

こつこつ取り組んで遊ぶ 目的をもって遊ぶ 「明日もやろう！」

季節に応じたの素材を取り入れながら遊びを継続していく

よりいい物を作ろうと極めるようになる（泥だんご作りやクッキー、ケーキ作り）

作り方や遊び方を教え合う姿が多くなる

・自分で決めて選んで遊べる環境

自分でやりたい遊びをどこでも安心して遊べる 自分の好きな遊びが見つかる環境

・友だちとのかかわり

友だちと一緒に好きな遊びを楽しむ

・異年齢のかかわり

常に一緒に遊んでいることで自然な異年齢の関わりが見られるようになる

年長児の育ち・・・思いやり 優しさ 譲る 協力 受容 我慢 満足感

年下の子たちの育ち・・・憧れ 真似 遊びの伝承 スキルの獲得 満足感

・遊びだけでなく生活やクラス活動にも影響

遊びで満足すると次の活動も意欲的でスムーズ

登園することにも遊びへの目的を持つようになる



意欲 根気 集中 期待 満足感 達成感 工夫
 自信 好奇心 探求心 協同性 対話 思考力
 発想 創造力 判断力 応用力 挑戦



主体性の育ち

保育者の取り組み

園庭の遊びを園全体でコーディネート・・・職員間の話し合い⇒意識共有

遊び場所（各コーナー）の設定 =子どもの動線を考えたり、水道の位置 木陰・日陰を考慮

保育士の立ち位置=子どもの興味に合わせながら遊び場所（コーナー）の持ち場をある程度決めておく

・・・子どもの安心感 居心地の良さ 継続した遊びの展開につながる

環境設定の重要さ=可動遊具の設定 素材（自然物等）の準備、用意、整理

・・・様々な素材から選べ、子どもの扱いやすさを配慮⇒遊びの工夫・アイデアの広がり

環境や素材の提供の仕方・・・タイミングや量の配慮は重要

子どもが作ったものを大事にしたい

⇒残し方、片付け方の検討 「片付けないでね」のプレート作り ケーキなどの展示場所を設置

子どもへの言葉がけ 気持ちへの寄り添い 同じ目線
未満児からみんなで遊ぶ＝未満児と一緒に遊べる園庭

安心・安全の確保＝安全に関する話し合い 危険だから未満は未満の庭で！ではなく、どうしたら遊べるのかを考える・・・未満が幼児と遊ぶ意義を問い続け、ぶれない思いを保育につなげる

遊びのエピソードを記録・・・エピソード用紙の検討（簡単に書き留められることが大事）

記録は写真とともに展示⇒共有



職員の同僚性・協同性

“ONE TEAM!!”

子どもの変化や成長を共有し共に喜び合ったり、励まし合ったり、認め合ったりする

・・・モチベーションアップ

幼児・未満クラスがお互いの思いを常に共有

保育観の共感・共有 共通意識をもちぶれない保育

※保育士として悩み続けること！・・・課題を職員みんなで話し合っって答えを見つけよう！⇒保育の質向上

※保育士自身が楽しむこと！・・・保育士が楽しいと思えた時に子どもの遊びも盛り上がる！！

※自分たちの保育を語ろう！・・・職員間で話し合うことで自分たちの保育を実証！自信をもって語れるようになろう！

家庭への発信

<園だより・クラスだよりの発信>

戸外遊びの大切さ 子どもたちが生き生きと遊ぶ姿
遊びの中で育まれるもの

<保育参加>

保護者が保育参観とは別に都合のいい日に園生活を体験。子どもたちの遊ぶ姿をじっくり見る中で、遊び方や友達とのかかわり方、育っている姿に感動してもらえることが多かった。

<作品展>

秋の作品展に園庭で遊んで作ったケーキやクッキー、泥だんご等も展示。遊び場を再現しての展示も好評。遊び方や泥や土で作ったものを実際見てもらった。



園庭でのケーキ作りコーナーをリズム室に再現

これらの発信により遊びに対する理解が得られている。戸外で遊ぶ意味を理解していただき保護者からの協力のもと園庭で思いきり遊ぶことができている。

学びの連続性

- 遊びで培われた様々な力が全て「学びに向かう力」の基礎となる。
- 豊かな経験からくる発想、創造力、好奇心が学びの幅を広げる。
- 遊びのなかで友だちとの関わり楽しさを知り、今後大切になるコミュニケーション力の育みとなる。



『生きる力』の基礎

お正月の経験から、ピザを焼いていた窯でお餅を焼き始める年長児



次の活動への展開

経験と継続性のなかから遊びが広がっている。その発想やアイデアを大切にし、寄り添いながら共に楽しみ、さらに遊び中から主体性を育てる。

※明日もすぐ出て遊ぼうね。だってあそこもあそこも楽しかったから！！(年長児)

※また明日も遊べる！続きをしたいという子どもと一緒にいつもワクワクした！(保育士)